

令和5年度

## 松山看護専門学校 学校関係者評価報告書

この学校関係者評価報告書は、松山看護専門学校の令和5年度自己点検・自己評価報告書に対する学校関係者評価委員からの意見を取りまとめたものである。

令和6年8月16日

学校関係者評価委員

委員長 渥見 秀夫

### 1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

### 2 学校関係者評価の基本方針

本校の自己点検・自己評価活動は、厚生労働省が示す「看護師等養成所自己点検・自己評価指針」に則り、8 カテゴリー・41 下位項目・129 評価項目にわたり、全方位的に原則として3年周期で行う「学校関係者評価」と、当該年度の学校運営目標に対して行う「学校関係者評価」があり、本報告書は後者によるものである。

### 3 学校関係者評価のポイント

- 1) 自己評価結果の内容の適切性
- 2) 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策の適切性
- 3) 学校の重点目標や評価項目等の適切性
- 4) 学校運営の改善に向けた実際の取り組みの適切性

### 4 学校関係者評価委員名簿

種 別	氏 名	所 属
関係業界	渥見 秀夫 (委員長)	聖カタリナ学園高等学校前校長
〃	山本 泰士	愛媛県社会福祉協議会常務理事
地域有識者	正岡 いづみ	松山市番町公民館館長
保護者	吉澤 里美	老人保健施設ミネルワ看護師長
卒業生	八塚 芳記	愛媛大学医学部附属病院看護師

## 【令和4年度の主な改善提案への学校の対応とそれに対する評価】

### 1 改善提案

- 1) 4年制大学が林立するなかで松山看護専門学校の重要性を増すよう、専門学校の長所をきちんとアピールし、優秀な学生の確保に努めてもらいたい。
- 2) 様々な場面・それぞれの段階での情報収集・情報交換を活発にし、それを集約する過程でグランドプランへの共通理解を目指してもらいたい。
- 3) 学生アンケートで要望のあったホームページの刷新・充実や学生世代が日々視聴するSNSを活用した広報に取り組んでももらいたい。

### 2 令和5年度の学校の取り組み

学校関係者評価報告書を踏まえ、令和5年度は令和4年度に引き続き、質・量ともに安定した学生の確保、新カリキュラム2年目の推進、看護師国家試験の全員合格、女性用洋式トイレの増設、看護学校将来構想の検討等について取り組んだ。

まず、学生の確保については、平成29年度に私立看護大学2校が開学して以降、少子高学歴化、大学全入時代等の影響を受け、非常に厳しい状況になっている。特に、令和5年度は定員の4割程度を確保したい一般入学試験において合格辞退が相次いだため、2次にわたる追加試験を実施したが、第1看護学科の開設以降初めて定員割れの36人となった。現場の看護師不足も深刻な状況から地域貢献のためにも、令和7年度入学試験制度の見直しを図っていくこととする。

次に、令和4年度の第17期生から適用開始となった新カリキュラムについては、2年目を迎え円滑な運用に努めた。中でも、「見てこんけん実習Ⅱ（疾病や障害のある人々への支援）」については、疾病等を抱えながら地域で生活する人々に必要な看護や支援の実際を見学・体験したことを活かして、今後、領域実習へと学びを積み重ねていくことが期待される。

次に、看護師国家試験については、令和5年度全国平均合格率が87.8%に対し、第1看護学科第15期生新卒43人は全員合格となった。これは、業者模試とは別に、教員が作成する校内模試とその解説を取り入れることにより、丸暗記ではなく根拠が分かった確実な知識と技能の定着を図った成果が出たものと考えられる。

また、女性用洋式トイレの増設については、施設整備に関する令和5年度最優先課題と位置づけ、昨年末に完成した結果、生活環境の大幅な改善に繋がった。

更に、令和5年12月14日開催の「第2回看護専門学校理事会」において、松山市医師会に設置される「看護専門学校将来構想検討委員会」を活用し、運営全般について医師会全体で協議していく方針が打ち出された。

## 【総評】

今年度は評価委員全員が一堂に会し、学校の設備等の現状を視察したうえで、学校側からの自己点検・自己評価報告書の説明を踏まえ、意見交換をすることができた。各委員による評価を委員長の責任において集約したものである。

まず、新型コロナウイルス感染症対策に翻弄された後も、少子高学歴化や4年制大学林立等の厳しい状況にあって、看護師国家試験合格率や卒業率の好成績が継続できていることは非常に高く評価できる。これらの好結果も、校内国試対策模試や保護者面談等を活用しての学習支援、学生の要望に応じて女子用洋式トイレを増設するなど、物心両面での行き届いた学習支援・環境整備にかけた努力の賜物と見ることができる。

次に、令和4年度から開始された新カリキュラムにおける「地域の健康支援見てこんけん実習Ⅰ・Ⅱ」は、新たな切り口の実習であり、次年度に改善点を話し合うなどPDCAサイクルに基づく取り組みが着実に行われている。残された課題を意識して次年度に実習を継続することにより、更なる成果の向上に繋がるものと期待している。

また、長期的な人口減少や若者流出、他の看護師養成機関との競争激化などを受け、学生確保はますます困難を極めているが、松山市において3年課程専門学校のニーズは間違いなくあると思われる。現行の学校訪問やオープンキャンパス、ホームページ等による広報活動は高く評価するところであるが、今後は、受験を呼びかける対象者の生活様式や情報入手手段を勘案して、SNS等を活用した活動を検討されてはどうか。その際、松山看護専門学校のセールスポイントである、高い看護師国家試験合格率や希望施設への就職率100%、講師や臨地実習施設が豊富で充実していることなどを強調して頂きたい。

更に、将来構想については、短期的な目標設定は十分に評価できるが、中長期的に、全国的な人口動態・学生動態や看護環境を視野に入れ、加速化する少子高学歴化に対応すべく、教職員の生活防衛を最優先事項に据えて、将来構想を練り上げてもらいたい。

## 【学校関係者評価】

- 1) 看護師国家試験合格率100%は非常に高く評価できるものであり、今後も継続し、物理的・心理的に安全な環境を提供して、来年度も目標を達成してもらいたい。
- 2) 受験を呼びかける対象者の生活様式や情報入手手段を勘案して、SNS等を活用した活動を検討されてはどうか。
- 3) 中長期的に、全国的な人口動態・学生動態や看護環境を視野に入れ、加速化する少子高学歴化に対応すべく、教職員の生活防衛を最優先事項に据えて、将来構想を練り上げてもらいたい。

## 【運営目標別評価意見】

### (目標)

#### I 教育成果の向上

##### 1 国家試験対策の充実を図り、看護師国家試験合格率 100%を目指す。

- 新卒の全員合格は非常に高く評価できる。校内国試対策模試の低得点者への学習支援や必要時の保護者面談等のきめ細かな指導の適切性が証明された。
- 第 15 期生 43 人は目標を達成しており評価できる。国家試験対策に関するセミナーや、模試低得点者の学習支援が成果に結びついたものと考えられるため、今後も継続し、物理的、心理的に安全な環境を学生に提供して、来年度も目標を達成してもらいたい。
- 試験合格率 100%の達成は、令和 4 年度から取り入れている校内模試とその解説の効果のほか、特に丸暗記ではなく根拠のわかった確実な知識と技能の定着を図るという教育方針や授業内容が十分な成果となっていると考える。
- 個々のカウンセリング体制が整っており、学生にとっても安心して学習に取り組める環境が整備されている。
- 業者模試とは別に、教員が作成する校内模試とその解説を取り入れている点は良い取り組みである。学生一人一人の苦手な試験科目を教員が把握し対応することが可能となるとともに、学生としても学習の動機付けや現状・苦手項目の把握に繋がったのではないかと考える。

### (目標)

#### I 教育成果の向上

##### 2 新カリキュラムを運用する。

- 「見てこんけん実習」などの新設意図は十分に評価できる。学習効果をより定着させるための事前準備・事前指導の充実が望まれる。
- 昨年開始した「見てこんけん実習」により、新たな切り口の実習が行われ、次年度改善点を話し合うなど PDCA サイクルに基づく取り組みが着実に進められている。残された課題を意識して次年度実習を継続することにより、更なる成果の向上につながるものと期待している。
- 新カリキュラムの「見てこんけん実習 I ・健康な人々への支援」は、幅広い分野が当てはまり、実習先の選定も難しいと思うが、公民館・市内のクリニック以外にも公共や民間を問わず、スポーツ教室やスポーツジム、スイミングスクールのような実習先も候補のひとつになるのではと思う。また令和 6 年度からの 3 年次新設科目も含め、新カリキュラムによる学生の学力・資質の向上に期待を寄せたいと思う。

- 地域に特化したカリキュラムであり、学生自ら学びを深めていければ良いと思う。
- 高齢化社会が進み、病院や地域のあり方などが目まぐるしく変化していく中で、カリキュラムを新しいものにし、評価・修正・改善していく点は高く評価できる。評価・修正・改善のサイクルを継続し、その時の社会状況にあったカリキュラムを今後も運用してもらいたい。

**(目標)**

**I 教育成果の向上**

**3 学生支援の充実を図り、卒業率 90%以上を維持する。**

- 第 15 期生の卒業率 95.2%は非常に高く評価できる。この学習支援の適切性が国試合格の成果につながっていると言える。
- 目標を達成するとともに、自己評価が昨年よりもアップするなど、教員・学生・保護者間相互の情報や目的意識の共有が功を奏したものと考えている。今後も、きめ細かな学生ケアを通じ、成果を継続されることを期待している。
- 今回、卒業率 95.2%で 90%以上という目標を達成できたことは、その取組みについて十分な効果があったものと思う。キャリア教育もこれまで同様の取り組みが大切であるとともに、16 期生 2 年生への新規授業に挙げられていた 2 年時からの進路ガイダンスも、進路や目標を早い時期から明確にして意欲をもって学校生活を送っていくことは、国試合格率や卒業率の向上のためにも大切な取り組みであると評価する。
- 学生の意見にあるように、大学と比較して教員との関係性が近い分安心して相談できるので、早期に相談できる体制が出来ると良いと思う。
- 教員のサポートが厚く熱心に学生に関わるのは、松山看護専門学校の強みである。継続して学生に対する温かいまなざしで、学習支援の充実を図ってもらいたい。

**(目標)**

**I 教育成果の向上**

**4 社会人基礎力を育成する。**

- 明確な目標のよとの PDCA サイクル設定は十分に評価できる。教科外活動の充実によってあらゆる機会を活かして学生の社会性を培おうとする実践は適切である。
- 学生の時期から社会人基礎力を育成する視点を持ってカリキュラムを編成することは重要であり、自己評価が昨年よりも大幅にアップしている。自己チェック表活用やグラフ化による課題や基礎力養成度合いの見える化は、学生・教員双方にとってモチベーション向上に役立っているものと考ええる。
- アルバイト等による学生のインフォーマルな活動によっても、社会人基礎力は育成されるものであるが、やはり看護師として必要な社会人基礎力の育成は、学校主導による

ものが大きいと思う。そして、社会人基礎力セミナーの実施は、卒業時アンケートで好評であったことから、学年に応じたますますの支援に期待したいと思う。

- 臨地実習や地域社会の活動への参加を通して育成できると思う。
- 就職後を見据えて、社会人基礎力セミナーを実施しているのはとても良いと思う。学生時に社会人基礎セミナーを受けることにより、実習に向けた対人関係や就職活動のマナー取得などにとっても役立つと思う。社会人基礎力の育成と教員の学生に対する親身な関わりを継続して実施してほしい。

**(目標)**

**I 教育成果の向上**

**5 教員の資質向上を図る。**

- 授業研究会や授業評価等、校内研修の実施状況は高く評価できる。校外研修も、教員の負担増にならないように、自主的な研修の推奨を図りたい。
- 授業評価の分析や結果の活用ができるなど定着したので今後も継続されたい。また、日頃の授業はもちろん、それ以外の場での生徒とのコミュニケーションなど身近な機会にも、ヒントがあると思われるため一層の向上に努められたい。
- 先生も忙しいとは思いますが、学校内・学校外を問わず、研修を重ね教員の資質向上に努め、その成果が授業に反映されることに期待する。
- 先生の学生を中心とした学習体制に感謝する。
- 講義や実習の準備・実施だけでなく、学生一人一人と個別支援や個別面談など関わりながら学校内外研修を受けるのは限られた時間の中で忙しいとは思いますが、継続して実施しその成果を学生に還元するなど、今後とも厚いサポート、親身な関わりをお願いしたい。

**(目標)**

**II 学校運営の安定**

**1 質・量ともに安定した学生確保に努める。(受験倍率3倍)**

- 学校訪問・オープンキャンパス・HP等の広報活動は高く評価できる。入学試験方法(特に時期)の見直しに取り組む姿勢は極めて時宜を得ている。
- 自己評価が昨年より大幅にアップしている。副学校長、事務長、学科長による県内高校訪問や学生確保のための広報活動は有効と思われる。今後はターゲットの生活様式や情報入手手段を勘案して、SNS等に特化した活動も検討されてはどうか。
- 高校の卒業生も年々減るとともに、看護関係の学校が5校も林立するこの地域で、受験倍率3倍という目標数値は、見直しを図り、現実的な数値目標の達成を目指していくことも必要かと考える。卒業後3年間くらいの離職率・転職率なども調べて、アピールで

きる結果があれば大きなセールスポイントになるのではないか。また、男子学生の増員を図るためのPR方法等を検討してみてもどうか。

- 創立123年という伝統を活かした啓発活動のほか、看護師の魅力の発信、ICTを活用した広報活動が重要ではないか。
- 少子高齢社会が進んでいることから学校単体での取り組みでは限界はあるが、松山市で3年課程看護専門学校へのニーズは間違いなくあると思う。高い国家試験合格率と希望施設への就職100%、講師、臨地実習施設が豊富で充実しているという松山看護専門学校の強みについて情報発信を行い学生確保に努めてほしい。

**(目標)**

**II 学校運営の安定**

**2 学びやすい、働きやすい職場環境をつくる。**

- 教員数の確保や有休5日取得等は十分に評価できる。業務量の偏りの見直しや教務事務の配置・連携等の検討課題への適切な対処に期待したい。
- 自己評価が昨年に比べて唯一下がっている項目である。年間予定の可視化など、教員が情報共有するうえで重要な取組は、IT導入等により、さらに加速させる一方で、教職員、学生を含めた面談によるケアなどリアルな取り組みについても充実させてほしい。
- 有給休暇取得率は職場環境を考えるうえで分かりやすいバロメーターになるほか、教員のメンタルヘルスケアの充実は重要だと思う。電子化が可能な業務の抽出も教務事務軽減には不可欠であるが、実施にあたっては、可能であれば外部委託が望ましい。ただし、学校経営の視点も踏まえ、十分な検討と慎重な判断が必要であると考えている。
- ICT活用で不足するコミュニケーションを増やししながら、学生、教員共に笑顔で楽しめる環境であることを望む。
- 自身の在籍時と比べ、teamsの活用や授業資料のペーパーレス化、iPadによる電子教科書の活用など様々な点で変化が見られた。特に良いと思った点は、ラウンジへの学生用プリンターの配置である。3年時の国家試験対策でラウンジを使用した際、学生間でプリンターを希望する声が出ていたので、学びやすい環境に変化していると感じた。

**(目標)**

**III 看護学校将来構想**

**1 第1看護学科の今後の在り方について検討する。**

- 短期的な目標設定は十分に評価できる。中長期的に、全国的な人口動態・学生動態や看護環境を視野に入れ、加速化する少子高学歴化に対応すべく、教職員の生活防衛を最優先事項に据えて、将来構想を練り上げていきたい。

- 自己評価が昨年より大幅にアップしている。アンケートで明らかになった学校の強みや、学生の意見を最大限活用して、来年度の将来構想検討委員会の議論に結び付けて頂きたい。また、看護基礎教育や、全国及び愛媛県の人口動態の最新動向を踏まえながら、中長期的な検討を進めることが望ましい。
- 十分な対応がされていると思うが、更なる試行錯誤により一層の充実を目指していくことが重要であるとする。
- 伝統ある看護学校であり、地域に根差した松山市医師会のバックアップがあり、現代社会の問題である高齢化に対して地域包括ケアシステムに関する学習を深めていく。Z世代の学生に指導者が寄り添えるように、指導者の指導力の向上を図ってもらいたい。
- 松山看護専門学校の強みは①松山市内にある数少ない専門学校であり立地が良いこと②講師、臨地実習施設が豊富であること③幅広い年代の学生と関わることが出来ることであるとする。学校のホームページを確認すると①はある程度分かるものの②及び③に関しては分かりにくいと感じた。ホームページを分かりやすくするなど、広報にも力を入れる必要があると感じた。